

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100307		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム吉原		
所在地	〒840-0013 佐賀市北川副町大字新郷654-1		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigvosyo_index=true">http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigvosyo_index=true</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年9月21日	外部評価確定日	平成28年11月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者さんや御家族さん達のやりたい事を認知症だから、グループホームに入っているからとあきらめない環境作り。どんなに些細なことでもやってみたいな、行ってみたいなという思いを大事にした関わりに努めています。その一つとして、『夢叶えプロジェクト』があります。夢館の理念でもある「いくつになっても夢のある暮らしを」を目標にその方の思いに寄り添うケアが出来るよう日々頑張っています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市の中心市街の南部環状通りから入った住宅と田園がある静かな環境に位置し、医療法人が経営されて3年目の事業所である。事業所は複合施設「夢館」の中にあり、総合窓口の受付後は独立した施設となっている。広々として明るいリビングを中心にキッチン・各居室・浴室・トイレ等の動線が良く整備されている。法人の理念である「いくつになっても夢ある暮らしを」の基に、事業所の理念として「尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援に取り組みその人の一瞬一瞬に寄り添っていきます」として、利用者一人ひとりの「夢叶えプロジェクト」を企画して、大きな夢の実現を支援している。また、利用者の見事な作品を玄関ロビーに展示して来館者に見てもらっている。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に生活環境が構築できるよう、ホール内やスタッフルームなど目につくところに理念を掲げている。出来る限り入居者さんの声を傾聴するよう努めている。	法人の理念の基に事業所独自の理念と、10項目のケア方針を掲げて、その人らしい人生の継続ができるよう支援している。事業所には理念を掲示し、常に意識するようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩し地域の方々と話をしたり、地域のイベントに参加させてもらったりしている。まだまだ、日常的な交流というと少ないと考える。	地域の一員として地域主催の桜祭り・夏祭り・秋祭り・八坂神社祭り・小学生とのしめ縄作りや夏休みのラジオ体操等へ自治会長の案内で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事業所の状況などの報告。中学校や高校からのボランティアや職場体験の受け入れを出来る限り行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんや民生委員さんより地区で行われる行事のお知らせなどから、事業所で参加できるような行事等を選定。また、季節に合った取り組みなど提案してもらったこともある。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、自治会長・民生委員・女性の会・家族・職員等の出席を得てホームや利用者の状況を報告して双方向の意見等を出し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、地域で開催される行事等の情報もその際に得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐賀中部広域連合へ、困ったこと等は積極的に連絡するようにしている。また、地域包括支援センターの管理者さんに運営推進会議へ参加してもらうことで、事業所の現状を伝えていく。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席があり、事業所の現状や実態を伝えている。また、佐賀中部広域連合とは日頃から連絡を密にして、積極的に相談や連絡をして協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、職員の意識を高め、身体拘束ゼロを目指している。現在、玄関の施錠は昼間はできる限り開錠し、夜間は施錠を行っている状況。個別で、身体拘束を行っている方に関しては、1週間おきに現状をアセスメントし、拘束が解除されないかを検討している。	身体拘束の弊害については、法人で研修がされており、職員の意識を高め、身体拘束ゼロを目指している。センサーマット使用については、家族の同意を得ており、1週間おきに現状をアセスメントしてその必要性を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でのマニュアル作成、見直しを行い、勉強会を開催し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己学習を行い、研修参加が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ゆっくりと時間をとり不安や疑問を聴取するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日々声を掛け話しやすい雰囲気づくりに努め、御家族へは来所持には必ず声を掛け、気になることや困ったことが無いか尋ねるようにしている。	利用者とは日々の関わりの中で、会話をはずませ、また、家族の来所時には必ず声掛けをして利用者の日々の暮らしを知らせている。家族によっては1日おきに訪問される方もいるため、その際に声かけをしたり、家族代表が運営推進会議に出席される等の機会ごとに意見や要望等を表してもらえるように努めている。また、それらを運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を行い、スタッフの意見が聞ける様努めている。	組織は介護者→副主任→主任→ケアマネジャー→管理者→館長→代表者となっている。館長が常時館内に在館しており、職員は運営に関する意見や提案を表すことができる。また、月1回グループホーム会議を実施して、なお一層の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を定期的に行い、希望する研修に関してはできる限り参加してもらっている。また、必要と思われる研修積極的に参加している。オンデマンド研修制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加などを通じ、同業者との関わりを持つようにしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に、本人や家族に聴取し出来る限り安心した生活ができるよう考慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、本人や家族に聴取し出来る限り安心した生活ができるよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、本人や家族に聴取し出来る限り安心した生活ができるよう考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんができる事は、可能な限りお手伝いして頂き、一緒に生活しているという実感を持って頂けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、一緒に散歩へ出かけたり、食事の介助をして頂いたりと本人と関わる機会を多く持ってもらえるよう関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者の親戚の訪問やお知り合いの訪問、理髪店等以前の生活習慣を継続できるようにしている。	外部からの訪問は少ないが、併設の他施設利用者や通所リハビリテーション利用の方との交流があったり、家族の支援により以前の美容室利用や生活環境の継続維持が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物をたたんだり、茶碗を拭いたり、散歩への声かけを行ったり、お互いに声を掛けて頂くよう促している。日中は、本人が嫌がらなければフロアーで過ごす時間を多く持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に声を掛けて頂くよう話をしている。また、同施設内の通所リハや、病院受診等を行われた際は、面会に行くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話から希望や意向を傾聴し、困難な場合は御家族から話を聞くように努めている。	利用者一人ひとりを担当制としており、日々の関わりの中での会話や行動から希望や意向の把握に努めている。困難な場合はご家族から話を聴いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業所からの情報提供、医療機関からの添え書、本人・家族からの情報により、経過を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活時間を把握し、書写をしたり大正琴を弾いたりと思い思いの時間が過ごせる努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のご希望を踏まえ、また医療機関のリハビリスタッフや看護師等に現状を聴取し、現状に応じた計画を作成するように努めている。	本人やご家族の思いや意見を基に、医療関係者・リハビリのスタッフ・看護師等や担当職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。状態変化時は随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、計画作成担当者や管理者と話し合い計画に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアなどを活用し、地域とのつながりにより楽しみを感じて頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聴取し、ご希望があれば当医療機関へかかりつけを移行するようにしている。週に1回の訪問診療により、定期的な健康管理が行えている。	入居時にかかりつけ医を聴取しているが、事業所の協力病院へ変更されている。週1回の訪問診療により、適切な健康管理が行えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の情報を看護師へ報告し、早期受診につながるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に情報提供を行うことや医療機関より情報提供を行ってもらっている。また、家族へも情報提供を確実にし、受診時には出来る限り家族も立ち会いをして頂くように促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方を、入居時に説明を行い、医療機関を交え、今後の方針や支援の在り方を検討している。	重度化に伴う意思確認書を作成し、入居時に指針を説明している。看取りの介護には、訪問看護を利用している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、緊急連絡網などの活用により、医師や看護師への迅速な連絡や指示を受けられる体制づくりを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などを想定し、防災訓練を年に2回実施している。(法人と一緒に)	火災や地震・水害等を想定して消防署の指導の下に、利用者を含めた法人全体の訓練を年2回実施している。備蓄も用意されている。	最近の集中豪雨等時における河川の決壊が懸念されており、施設の2階への避難時を想定して、訓練時に近隣の住民との連携や協力要請等ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、その方にあった声のかけや敬語を使用することにより、誇りを損ねない対応を心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。基本的には名字で声掛けしているが、同性の人には親しみを込めて名前を呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ声かけを多くし、訴えを表出しやすい雰囲気づくりに努めている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを尊重し、入浴時間や食事時間等その時々で考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や整髪、お化粧品等普段していたことを継続できるようお手伝いしている。着替えの際は、できるだけ自分で洋服を選んでもらう等し、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お米を研いでもらったり、テーブル拭きや箸等の準備をしながら、その日のメニューの話などをしている。	主食のごはんは事業所で準備され、副食は法人の厨房で調理されている。1椀毎にラップをして清潔に提供している。月1回料理レクリエーションを実施したり、駅弁弁当が提供されたりと食事が楽しみなものとなっている。利用者はリビングに掲示されたメニューについて職員と話をする等しながら、食事の準備を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の観察、水分量の把握を行い必要に応じ栄養士へ相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・含嗽を行い口腔内の清潔に努めている。また、必要時歯科受診を行い、より安心した口腔機能の安定に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとの排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努めている。	一人ひとりの時間毎の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用される利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで体を動かす機会を提供し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週3階の入浴である。汗をかかれた際や希望等はシャワー浴などで対応を行っている。	基本は週3回の入浴としているが、入浴日や時間の変更も柔軟に対応している。希望があれば、足浴をしたり、シャワー浴や入浴剤使用の風呂の日がある等、いつでも気持ちよく入浴できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は自由で、日中も休息を行い時は、ご本人の思いで休んで頂いている。枕や布団など所定の物があるが使い慣れたものを自宅から持って来られることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬は、職員が周知できるように掲示し、各自学習を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活習慣を考慮し、洗濯物を干したり茶碗を洗ったり、ハーモニカの演奏をしてもらったりと出来ることややりたい事を出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の外出は個別に対応している。イベントに参加する際は、法人スタッフにも手伝ってもらい、外出支援に取り組んでいる。	日常は夢館周囲の遊歩道を散歩している。季節ごとのイベントや花見には法人の職員の協力を得て出掛けている。一人ひとりの夢叶えプロジェクトがあり、長崎までの同行等も実現した。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、御家族と相談し個人で管理を行われている方もいる。持ち合わせがない方については、必要時家族に準備して頂くよう連絡・相談を行っている。買い物の際は、出来るだけ自身で支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状の作成。電話は希望に応じ自由に使用できるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や臭気には十分注意し調節行っている。窓は大きく設計してもらい、外にある街路樹の色づきなどが常に観察できるよう配慮している。フロアーにはソファが多くあり思い思いの場所で過ごせるようにしている。	共用の空間は清潔で、室温や臭気には十分注意して調節されている。リビングの南側の窓越には季節を感じられる配慮がされ、ゆったり寛げるソファが多くあり、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のフロアーでは一人掛けソファもあり、また離れて設置しているソファもある為、好きな場所で思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自由に持ち込みをして頂き、御家族の協力のもと写真を飾ったり、絵を飾ったりとくつろげる雰囲気作りに努め、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には作り付けのダンスとクローゼットがあり、居室はすっきりとしている。テレビやテーブルや椅子等使い慣れた物を持ち込み、写真や絵を飾ったり人形を置いて居心地よく過ごせる工夫をしている。また、新聞を購読している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんの持てる力を最大限引き出せるよう、車椅子も自由に自走できる広さを作り、手すりも多く設置し、歩行も安全に行えるように環境作りに努めている		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない